

IBM Campaign
バージョン9 リリース0
2015 年 10 月

リリース・ノート

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 9、リリース 0、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Campaign Version 9 Release 0
October 2015
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1998, 2015.

目次

第 1 章 システム要件と互換性 1	IBM 技術サポートへのお問い合わせ 25
複数のブラウザ・ウィンドウで Campaign を使用する 1	特記事項 27
第 2 章 IBM Campaign v9.0.0 の新機能 と変更点 3	商標 29
第 3 章 修正された問題 9	プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項 29
第 4 章 既知の問題 11	
第 5 章 既知の制限 17	
第 6 章 Campaign Reports Package 21	
Campaign Reports Package の既知の問題 23	

第 1 章 システム要件と互換性

IBM®Campaign は、IBM EMM 製品スイートの一部です。 Campaign バージョン 9.0.0 には Marketing Platform 9.0.0 が必要です。

最良の結果を得るには、画面解像度を 1440 x 900 以上に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザ・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性がある IBM EMM 製品バージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この資料は、IBM Support Portal Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

注: Support Portal から IBM EMM 資料にアクセスするには、IBM アカウントでログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」 > 「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

この資料には、IBM EMM にログインしているときに、「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

インストールおよびアップグレード

Campaign 9.0.0 (eMessage を含む) へのアップグレードは、バージョン 8.5.x.x または 8.6.x.x からのみ可能です。 Campaign または eMessage の以前のバージョンがある場合、「IBM Campaign インストール・ガイド」の『Campaign アップグレード・シナリオ』トピックにリストされたアップグレード・パスに従ってください。

IBM EMM インストール済み環境でのデフォルトのトップレベル・ディレクトリーは、/IBM/EMM (UNIX の場合) または C:\IBM\EMM (Windows の場合) です。製品インストーラーは、製品ファイルを EMM ディレクトリーの下での個別のサブディレクトリーに配置します。詳しくは、「IBM Campaign インストール・ガイド」を参照してください。

各製品インストーラーの応答ファイルには、バージョン番号が含まれるようになりました。

複数のブラウザ・ウィンドウで Campaign を使用する

複数のブラウザ・ウィンドウで IBM Campaign 9.0.0 を使用するには、「ファイル」 > 「新規セッション」を使用して、追加の Internet Explorer ウィンドウを開く必要があります。

IBM Campaign 9.0.0 フローチャートでサポートされるブラウザは、Windows Vista または Windows 7 クライアント上の Internet Explorer 9.0 (32 ビット) だけです。

情報を横並びに表示するために IBM Campaign に複数回ログインする場合、以下の方法を使用して複数のブラウザ・セッションを開く必要があります。

重要: 複数のブラウザ・セッションを開くために、これ以外の方法は使用しないでください。例えば、Internet Explorer で新しいタブを使用したり、「開始」メニューやデスクトップ・アイコンから別のブラウザ・セッションを開いたり、Internet Explorer の「ファイル」>「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、IBM Campaign は新しいブラウザ・インスタンスを同じブラウザ・セッションとして扱います。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が混乱したり破損したりすることがあります。

1. 「スタート」メニューまたはデスクトップ・アイコンで、Internet Explorer 9 を開きます。
2. IBM Campaign にログインします。
3. ステップ 1 で開いたブラウザ・ウィンドウで、Internet Explorer メニュー・バーの「ファイル」>「新規セッション」を選択します。

新しい Internet Explorer インスタンスが開きます。

4. 新しいブラウザ・ウィンドウで、Campaign に同じユーザーまたは別のユーザーとしてログインします。

要確認: ブラウザーやブラウザ・アドオン (ツールバーなど) のポップアップ・ブロッカーは、無効にする必要があります。ポップアップ・ブロッカーは、フローチャート・ウィンドウが開くことを抑止します。

第 2 章 IBM Campaign v9.0.0 の新機能と変更点

IBM Campaign バージョン 9.0.0 には、次の新機能と変更点が含まれます。

ブランディング

Unica® の名前は使用されなくなりました。例えば、IBM Unica Campaign は名前変更されて、IBM Campaign となります。

IBM Coremetrics は名前変更されて、Digital Analytics となります。

ユーティリティ

ActiveX クリーンアップ・ユーティリティ (uacflchk) は、必要なくなったため、提供されなくなりました。

IBM EMM 製品のアラートと構成を登録する、新しい IBM Marketing Platform ユーティリティの alertConfigTool があります。詳しくは、「*IBM Campaign* インストール・ガイド」を参照してください。

構成

ODBC データ・ソースの新しい構成プロパティ (設定 | 構成 | Campaign | Partitions | partition[n] | dataSources | DefaultTextType) があります。このプロパティは、ソース・テキスト・フィールドが異なるデータ・ソース・タイプからのものである場合、IBM Campaign に、宛先データ・ソースにテキスト・フィールドを作成する方法を指示します。詳しくは、「*IBM Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。(TT DOC00628)

新しい構成プロパティが追加されました (Affinium | Campaign | partitions | partition[n] | server | flowchartConfig | legacyMultifieldAudience)。ほとんどの場合、このプロパティは、デフォルト値の FALSE に設定したままにしておくことができます。Campaign v8.5.0.4 以降は、複数フィールドのオーディエンス ID フィールドに、フィールドのソースとは関係なくオーディエンス定義に応じた名前を付けます。プロセスが複数フィールドのオーディエンス ID フィールドを使用するように構成するとき、複数フィールド・オーディエンス用の新しいオーディエンス ID 命名規則が示されるようになります。以前の Campaign バージョンで作成されたフローチャート内の構成済みプロセスは、機能し続けるはずですが、命名規則が変更されたために古いフローチャートが失敗する場合、legacyMultifieldAudience=TRUE を設定して、Campaign の動作を元に戻すことができます。(RTC 5219 DEF063741)

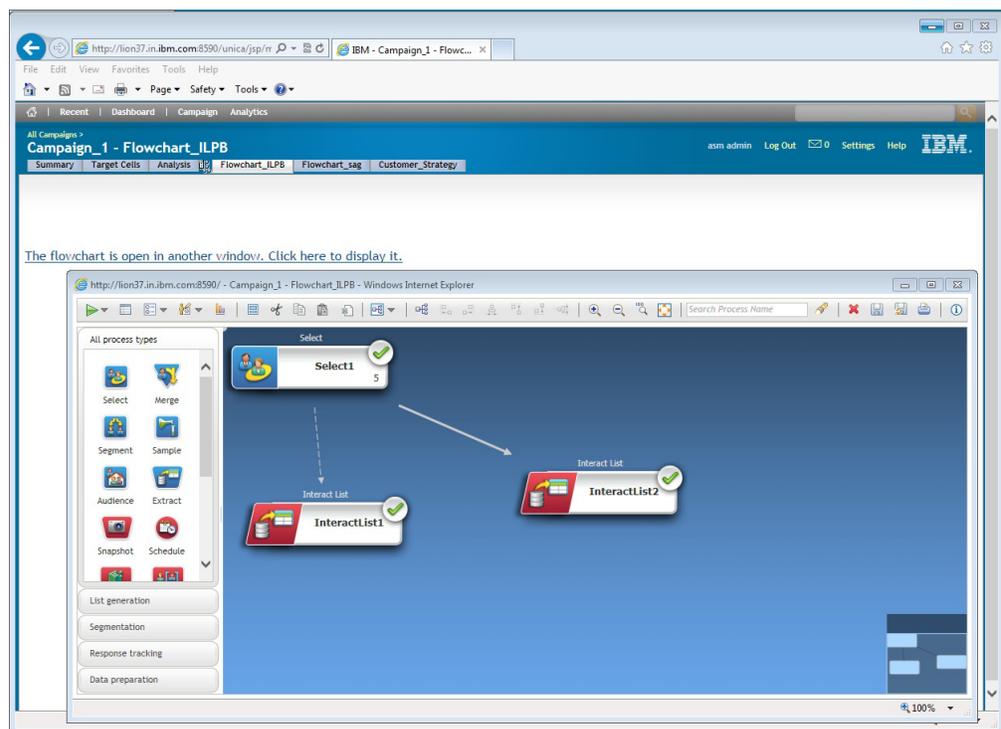
「Campaign | サーバー | fullContextPath」プロパティは、Campaign フローチャートがアプリケーション・サーバーのリスナー・プロキシーと通信するために使用する URL の指定に使用されるようになりました。このプロパティはデフォルトでは定義されていないので、システムが動的に URL を決定します。Marketing Platform が IBM Tivoli® Web アクセス制御プラットフォームと統合される時、Tivoliでこのプロパティを Campaign URL に設定する必要があります。

フローチャート

バージョン 9.0 以降、フローチャート・ワークスペースは、外観を変更しユーザビリティを改善するために再設計されました。フレームワークは、Active-X ではなく、Dojo コンポーネントの Dojo Diagrammer に基づくものとなりました。Internet Explorer のみでサポートされている ActiveX を使用するには、フローチャートを扱うために、クライアントにプラグイン制御をダウンロードする必要があります。多くのお客様がプラグインのダウンロードを望まないため、また、ActiveX が Internet Explorer の今後のバージョンでサポートされなくなるため、フローチャート・ワークスペースを使用できるように、Dojo コンポーネントが導入されました。

再設計には、フローチャートとレポート・コンポーネント (ツールバー、ダイアログ・ボックス、進捗状況インジケータ、関連したコントロールなど) の外観の変更が含まれます。全体的な機能は同じです。

フローチャート・ウィンドウは、以下の例のようになります。



以下のリストは、変更の要約を示しています。

- **別個のフローチャート・ウィンドウ。** フローチャートを作成または編集するとき、別個のフローチャート・ウィンドウが開きます。新しいフローチャート・ウィンドウの以下の機能をご確認ください。
 - メインの Campaign ウィンドウのフローチャート・タブをクリックすると、そのメイン・ウィンドウには「フローチャートは他のウィンドウで開かれています。ここをクリックして表示してください。(The flowchart is open in another window. Click here to display it.)」というリンクがあります。フローチャート・ウィンドウがすでに開いているときにこのリンクをクリックすると、フロ

ーチャート・ウィンドウがアクティブになります。フローチャート・ウィンドウを閉じてからこのリンクをクリックすると、フローチャートが表示モードで再度開きます。

- ポップアップ・ブロッカーは、フローチャート・ウィンドウが開くことを抑止します。ご使用のブラウザーまたはブラウザー・アドオンでポップアップ・ブロッカーをオフにするか、Campaign サーバーについて特定の例外を設定する必要があります。
 - フローチャート・ウィンドウは、移動したり、画面のサイズまでサイズ変更したりできます。また、フローチャート・ウィンドウが開いているときにメインの Campaign ウィンドウで作業することもできます。
 - フローチャート・ウィンドウは、一度に 1 つしか開けません。すでにフローチャートが開いているときに別のフローチャートを開いたり編集したりすると、開いているウィンドウの現行フローチャートは新しいフローチャートに置き換えられます。現行フローチャートの変更内容を保存していない場合は、新しいフローチャートが開く前に、変更内容を保存するようプロンプトが出されます。
- **新しいツールバー・アイコン。** ツールバーには、更新されたアイコンのほか、フローチャートとその表示用に追加されたコントロールを提供する数多くの新規オプションも含まれています。
 - **プロセス・ボックスの更新。** パレット上のプロセス・ボックスのアイコンが更新され、見やすく選択しやすくなりました。

プロセス・ボックスの接続は、ActiveX コントロールのようにプロセス・ボックスの中央に限定されておらず、プロセス・ボックス上に表示されている 4 つの接続ポイント (左、右、上部、下部) のいずれかから線を描画します。

注: 以前のリリースとは異なり、新しい外観を使用するすべてのプロセス・ボックスとダイアログがサイズ変更可能なわけではありません。この点については、Campaign フィックスパック 9.1.0.2 で対応されています。

- **ドラッグ・アンド・ドロップ。** True Drag and Drop がサポートされているので、ワークスペースをクリックする代わりに、プロセス・ボックスをパレットからワークスペースへドラッグできます。
- **新しいフローチャートの表示ツールと編集ツール。** フローチャート・ウィンドウでは、ActiveX コントロールのグリッド・ベースのレイアウトを使用しなくなりました。その代わりに、プロセス・ボックスを自由に移動したり、フローチャートの任意の場所に配置したりできます。そのため、フローチャートが編集用または表示用に開かれているとき、フローチャートの外観を調整するために、次のような新しいツールが使用可能となっています。
 - ツールバー上の位置合わせ用オプション「左揃え」、「右揃え」、「上揃え」、「下揃え」、「中央揃え (上下)」、「中央揃え (左右)」を使用して、選択した複数のプロセス・ボックスを位置合わせします。位置合わせ用オプションが提供されるので、グレイ・ドットのグリッドは使用されなくなりました。
 - ツールバー上のレイアウト変更用オプション「ツリー」、「組織図」、「円形」、「階層」を使用して、事前定義されたレイアウトをフローチャートに適用します。

- ツールバー上の「ズームイン」、「ズームアウト」、「ズームのリセット」を使用して、フローチャートの部分の表示を整えます。キーボードの Ctrl キーを押しながらマウスのスクロール・ホイールを使用して、ズームインとズームアウトを行うこともできます。
- ツールバー上の「内容に合わせて調整」を使用して、ワークスペースに収まるようにフローチャートをサイズ変更します。その後、必要であれば、ズーム用のオプションまたはパン操作ボックスを使用して、表示をさらに調整します。
- ツールバー上の「検索」を使用して、フローチャートで名前によってプロセス・ボックスを見つけます。検索ツールでは大/小文字の区別はありません。検索結果が出た場合、一致するプロセス・ボックスがフローチャート・ウィンドウの中央に配置され、強調表示されます。「検索」アイコンをもう一度クリックすると、次の一致に進みます。
- ツールバー上の「すべて選択」を使用して、フローチャート内のすべてのプロセス・ボックスを選択します。
- フローチャート・ウィンドウの右下の隅にあるパン操作ボックスを使用して、確認する領域を強調表示します。パン操作は、多くのプロセス・ボックスがあるフローチャートで特に役立ちます。
- **実行中のフローチャート。** 新しいフローチャート・ウィンドウには、プロセス・ボックスの実行状態を示す新しいアイコンがあります。特に注目すべきは、アニメーション表示のアイコンによってフローチャートが実行中であることを示すアイコンと、ActiveX コントロールでは使用できなかった状況アイコンによってフローチャートが休止していることを示すアイコンです。
- **ダイアログ・ボックスの機能拡張。** フローチャート内の、特にプロセス・ボックスを構成するためのダイアログ・ボックスが、このリリースで改善されました。変更内容の一部として、以下の変更があります。
 - いくつかのダイアログで、リストの動作が変更されました。例えば、「**Ctrl + クリック**」を使用して、複数のアイテムを選択できます。展開可能なリストは、正符号 (+) ではなく、そのリストの横にある小さな矢印によって示されるようになりました。
 - プロセス・ダイアログ・ボックスの外観が更新され、以前のリリースと同様のレイアウトと機能を保ちながら、使いやすくなりました。
 - プロセス・ボックス・ダイアログでグリッド内のセル値を変更する場合に、別個の編集フィールドを使用する必要がなくなりました。セルを編集する場合はダブルクリックします。
- **新しいエクスポート・オプション。** プロセス内のフィールドをプロファイル作成した後に、プロファイル・データをエクスポートする方法が変更されました。以前は、データが XLS にエクスポートされ、ファイル名は「Campaign.xls」にハードコーディングされていました。データが CSV (コンマ区切り値) 形式にエクスポートされるようになりました。「**ファイル名**」フィールドを使用して、ファイル名を割り当てます。デフォルトの名前は、ダイアログ・ボックス・タイトルの「レポート・データのエクスポート」です。

新規の機能と変更された機能について詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」で以下のトピックを参照してください。

- フローチャート・ワークスペースの概要
- プロセス・ボックスに関する作業

- フローチャートの外観の変更

フローチャートが編集用に開かれているときにヘルプを利用するためには、フローチャート・ウィンドウ・ツールバーのヘルプ・アイコン  をクリックします。

レポート

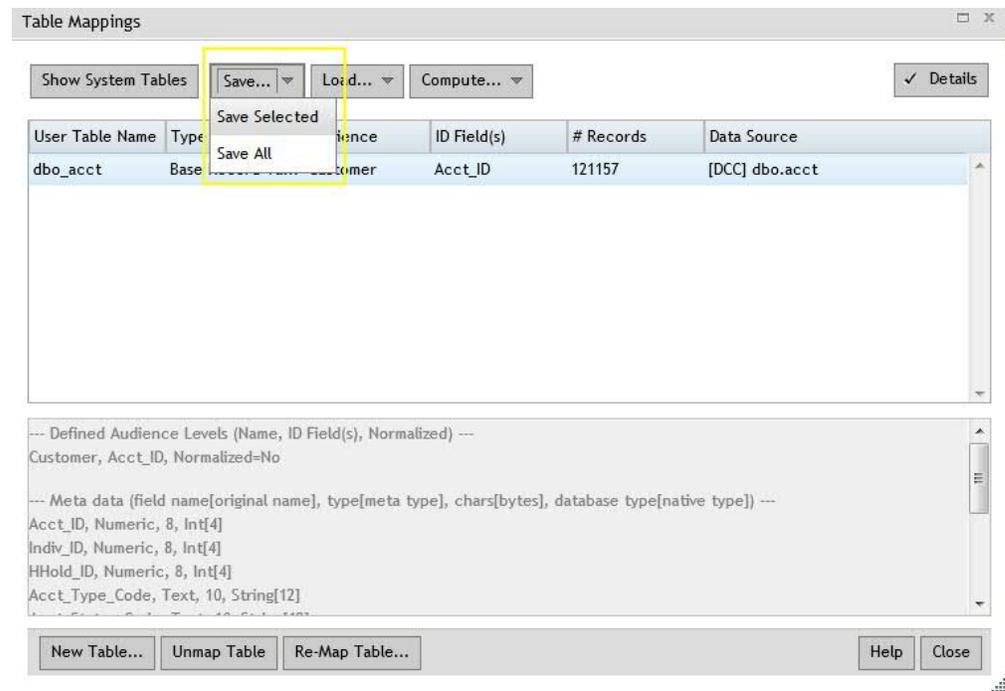
いくつかの変更がレポートの外観に対して行われました。例えば、セル・レポートの上部にある凡例がより読みやすいものに改善されました。

セル・ウォーターフォール・レポートでは、選択したセルが複数の下流プロセスに接続されている場合、分析するフローチャート内のパスを指定できるようになりました。レポート・ツールバーの「パス」リストを使用して、分析するパスを選択します。

レポートのインストール、アップグレード、および構成に関する情報が、IBM Campaign の文書には含まれなくなりました。これらの情報は新しいガイド、「*IBM EMM Reports* インストールおよび構成ガイド」に統合されています。

テーブル・マッピング

ActiveX コントロールを Dojo ベースのユーザー・インターフェースに置き換えたことによって、「テーブル・マッピング」ダイアログが更新され、機能強化されました。必須機能は変わりませんが、「保存」および「ロード」マッピング・コントロールは、以下の例のようにドロップダウン・リストに変更されました。



その他の変更

ロシア語がサポートされるようになりました。ロケール設定の設定方法について詳しくは、「*IBM Marketing Platform* 管理者用ガイド」を参照してください。

第 3 章 修正された問題

このセクションでは、Campaign 9.0.0 で修正されている問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 1. Campaign の修正された問題

問題 ID	説明
DEF061871	svradm でセッションを実行する際に、特定のケースでは、ユーザー・インターフェース・ビューが更新されません。
DEF062829	「セル・サイズの制限」が .xml 形式でセグメント・プロセス・ボックス用にエクスポートされません。
DEF062867	リスナーを -n パラメーターを指定してインストールすると、そのリスナーは Windows サービスとして非リカバリー・モードでインストールされません。
DEF063066	コンテキスト・ルートが複数レベルで構成されている場合、ユーザーはオファー・テンプレートを使用してオファーを追加できません。
DEF063073	コンテキスト・ルートが複数レベルに設定されている場合、ユーザーはセルを TCS に追加できません。
DEF063276	いくつかの日本語文字は、「重複の修正」ダイアログ・ボックスで受け入れられません。
DEF063391	変換テーブルがマップされておらず、Digital Analytics セグメントが入力されている場合のエラー・メッセージが不正確です。
DEF063408	StackOverflow が、TCS からオファーの Selectbox-String 属性を編集するときに表示されます。
DEF063429	数値ユーザー変数の初期値や現行値で複数の値が許容されます。
DEF063533	「任意の保存先に記録」オプションを使用してレコードを書き込む際に、ディクショナリー・ファイルが作成されません。
DEF063596	レポート・タイプ unica_acgenrpt は、該当のロケール用に変換されます。
DEF063623	フランス語で、コロン文字の前のスペースが欠落しています。
DEF063625	インストーラーのデフォルト・ロケールに「ポルトガル語 (ブラジル)」ではなく「ポルトガル語」がリストされます。
DEF063738	いくつかの非英語ストリングが英語のユーザー・インターフェースに表示されます。
DEF063741	セル・コンテンツ・レポートを表示しようとして、エラー 11300 になりました。
DEF063758	英語のインストーラーのページ・タイトルがステップと一致しません。
DEF063773	「モニターされたすべての実行」ページで、「開始時刻」列と「終了時刻」列のツールチップが間違っていて表示されます。
DEF063848	ユーザーは、Campaign システム・テーブルを手動で構成した後に、ac1snr を起動できません。
DEF063880	unica_acclean は、ファイル名が 200 文字を超えると、そのファイルを削除しません。
DEF063892	Campaign、Attribution Modeler、および Interaction History は、コンソール・モードでアンインストールできません。
DEF063939	unica_acsesutil が、マッピングされたフラット・ファイルのカウントを再計算できません。
DEF064011	Internet Explorer 8 を使用すると「Campaign 設定」ページでエラーが発生しました。
DEF064012	フランス語で illegal pattern character 'j' エラーが出て、機能が失敗しました。

第 4 章 既知の問題

Campaign 9.0.0 には、以下の既知の問題があり、問題番号順にソートしてリストします。

表 2. Campaign の既知の問題

問題	問題 ID	説明
UNIX のコンソール・モードでインストーラーを実行している際のメッセージ	該当なし	UNIX コンソール・モードでインストーラーを実行している際、インストーラーの .bin ファイルが見つからなかったことを示す通知メッセージが表示されます。このメッセージは無視して構いません。
非 ASCII データのマイグレーション後に、フローチャートを開くことができない	該当なし	非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。
UA_UsrResponseType.Name フィールドに制限された文字列を格納できない	該当なし	UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。
複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する	該当なし	<p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマッピングする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
プロファイル・ウィンドウのユーザビリティの問題	DEF02440	特定のインスタンスで、グリッド枠の線がゆがんでいます。
大半のウィンドウでホット・キーが実装されていない	DEF02968	Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
ユーザーが水平モードから垂直モードに切り替えるとき、プロセス・ボックス間の接続がオーバーラップすることがある	DEF02980	ユーザーが水平表示モードと垂直表示モードとの間で切り替えるとき、接続の線とプロセスがオーバーラップすることがあります。
単語の「OK」が翻訳されない	DEF04635、 DEF04636、 DEF05103、 DEF07619	エラー・メッセージと検査メッセージで、単語の「OK」が翻訳されません。
セグメント名はブランクのままにすることができる。Active-X に存在していた検査とエラーが欠落している	DEF05621	セグメントを作成するとき、セグメントにブランクの名前を指定できます。ただし、セグメント・プロセスをブランクの名前で保存することはできません。
DOJO のキャッシュに入れる場合、プロセス・ボックス情報が完全にロードされるまでは、不正確な情報が表示される	DEF06141	プロセス・ボックスが完全にロードされるまでは、直前の情報や直前のプロセス・ボックスに関連した情報が背景に表示されます。すべてのデータのロードが完了すると、画面が更新されて、最新のデータが表示されます。
データが存在しない場所では、グリッド枠が表示されない。	DEF06692	いくつかの特定のプロセス・ボックスでは、グリッド列にデータがない場合、グリッド内のセルの周囲にある枠が表示されません。
コンタクト日付が 2050 年の場合、最適化プロセス・ボックスにはエラー 10404 (「サーバー・プロセスと通信できません。サーバー・プロセスが終了している可能性があります (unable to communicate with server process; server process might have exited)」) が表示される。	DEF06910	コンタクト日付を 2037 年より後にすることはできません。
カスタム・セル属性ノードがセッション・フローチャートの IBM Campaign 生成フィールドの下に表示される	DEF07255	セッションではターゲット・セル・スプレッドシートを使用できないので、セッション・フローチャートの IBM Campaign 生成フィールドの下で、「カスタム・セル属性」ノードを使用できてはなりません。
構成が変更されていない場合でも、「OK」をクリックした後に、抽出に「プロセスの実行結果が失われます」と表示される。	DEF07685	アップグレードの後に、構成が変更されていない場合でも、「OK」をクリックした後に、抽出に「プロセスの実行結果が失われます」と表示されます。アップグレードの後に以前のバージョンからのテンプレートが使用された場合にも、同じメッセージが表示されます。
まだ実行していないセルについて不正確なレポートが表示される	DEF07844	まだ実行していないセルについて、直前のセルのレポートが表示されます。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
フローチャート・データの収集機能を実行するとき、サーバーが異常終了することがある	DEF08019	「フローチャート・データの収集」機能の日付フィールドにテキスト値が入力された場合、サーバー・プロセスが異常終了することがあります。
レポート・ウィンドウで完全な 3D グラフがユーザーに表示されない	DEF08036	レポート・ウィンドウでの最大値制限のために、1 つのウィンドウにスクロールなしで 3D レポートの全体を表示することはできません。
複数のプロセス・ボックスがフローチャート・ウィンドウでオーバーラップする	DEF08603	いくつかの特定のシナリオで、複数のプロセスが相互にオーバーラップすることがあります。
削除されたフローチャート・タブが引き続き表示されることがある	DEF08955	特定の条件下では、キャンペーンやセッションに再度アクセスするときまで、削除されたフローチャート・タブが表示されています。
メール・リストの「処理」タブで、コントロール・セルのオファー列とコントロール・セル列が無効な列として表示されない。	DEF09163	「メール・リスト」プロセスや「コール・リスト」プロセスの処理タブでは、コントロール・セルや関連オファーに関連付けられた列がぼかし表示されません。コントロール・セルのためのオファーを追加できないので、それらの列は無効にする必要があります。
アップグレードによって、Marketing Platform の setenv.bat に正しい情報が組み込まれない	DEF09359	Campaign アップグレード・スクリプトを実行するとき、「setenv.bat」内に Platform ホーム・ディレクトリーを示すパスが含まれています。UNICA_PLATFORM_HOME は、acUpgradeTool を実行するように設定されている必要があります。そのように設定されていない場合、ツールの実行中に、パスを指定するように求めるプロンプトがユーザーに出されません。 Marketing Platform が Campaign とは異なるマシンにインストールされている場合、アップグレード・ツールは Platform ホームのパスにアクセスできません。続行するには、ユーザーはアクセス可能な別の Platform ホームのパスを入力する必要があります。これには任意のディレクトリー内のパスを使用できます。
カスタム・マクロが、同時に他のユーザーによってアクセスおよび編集されている場合、他のフォルダーに移動されない	DEF09713	複数のユーザーが同時に同じカスタム・マクロにアクセスするとき、予期されない動作が生じることがあります。
オファーの名前が長い場合、「メール・リスト」プロセス・ボックスのユーザー・インターフェースの表示がおかしくなることがある	DEF10023	長い名前のおfferが「メール・リスト」プロセス・ボックスに割り当てられた場合、「メール・リスト」プロセス・ボックスのドロップダウンの表示がおかしくなることがあります。
クロス集計レポートを Excel にエクスポートすると、Internet Explorer のエラーが発生する	DEF010889	多数の bin が含まれる Campaign クロス集計レポートによって、固有値を数多く含むデータが処理されるときに、エラーが発生します。回避策は、bin の数を少なくすることです。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
「ファイルにエクスポート (Export to File)」にチェック・マークが付いていないとき、メール・リストの「サマリー・ファイル」オプションが無効になっていないなければならない。	DEF011416	「メール・リスト」プロセス・ボックスの「実現」タブで、「ファイルにエクスポート (Export to File)」オプションにチェック・マークが付いていないとき、「サマリー・ファイル」オプションは有効になります。ユーザーがサマリー・ファイル名を指定してフローチャートを実行しても、サマリー・ファイルは目的の場所に作成されません。
サンプル・サイズ計算でサンプル・サイズを変更した後に、エラー限度値が計算されません。	DEF011478	サンプル・サイズを変更して「エラー限度値の計算」をクリックした後に、エラー限度値が計算されたり表示されたりしません。直前のエラー限度値のままになります。
Campaign 生成フィールドの日付形式が常に米国の日付形式になる	DEF15427、 INC13930、 INC14653、 INC18663	米国以外のロケールにおける Campaign 生成フィールドの日付形式が、常に MM/DD/YYYY 形式になります。
キャンペーンまたはセッションの所有権を変更すると、対話式フローチャートと対話式セッションが失敗することがある	DEF055155、 INC65294	キャンペーンまたはセッションの所有権を変更すると、関連付けられた対話式フローチャートと対話式セッションが失敗することがあります。
関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations 側でオファーに表示されない	DEF062333	関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、Marketing Operations でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。
Campaign カスタム属性の形式に関する、不整合なエラー・メッセージ	DEF062527	Campaign カスタム属性のデータ形式が間違っている場合のエラー・メッセージ「無効なデータ形式 attribute_name (Invalid Data Format attribute_name)」では、カスタム属性でサポートされる形式を示す必要があります。
フローチャートの名前変更または移動が行われ、そのフローチャートのスケジュール 1 つが完了済みの場合に、フローチャート・スケジュールが失敗する	DEF062623	フローチャート・スケジュールが、エラー 701 で失敗します。
レスポンス日付に割り当てられたユーザー定義フィールドによる、レスポンス・プロセス・ボックスの失敗 (DB2® の場合)。	DEF062846	システム・テーブルが DB2 に存在する場合に、レスポンス日付が、日付 (日時ではない) を返すユーザー定義フィールドに設定されていると、レスポンス・プロセスの実行が失敗します。
最初にマップされなかった場合、Digital Analytics 変換テーブルはセグメント・プロセス・ボックスで使用できない。	DEF063392	変換テーブルが最初にマップされなかった場合に、変換テーブルまたは他のユーザー・テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
TCS からオファーの「選択ボックス - 文字列」属性を編集しようとする、スタック・オーバーフローが発生する	DEF063408	文字列選択ボックス・タイプのカスタム属性が含まれるオファーを作成します。この属性は、編集フォーム内からのリスト項目の追加が許可されます。キャンペーンのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) で、オファーをセルに割り当てます。値を追加または削除しようとする、スタック・オーバーフローが発生します。
数値ユーザー変数で、初期値または現行値において複数の値が許容される	DEF063429	数値ユーザー変数で、初期値または現行値として複数の値が選択または入力された場合 (すべての値が追加されます) に、不正確な値が表示されます。回避策は、単一の値のみを選択または入力することです。
重要でないアップグレード・ログ・メッセージ。	DEF063452 (DOC00681)	6.4 から、7.x から 8.5 までのいずれかのバージョンにマイグレーションし、次いで 8.6 にアップグレードする場合に、ID 15 の「クリエイティブ URL」が UA_AttributeDef テーブルに存在するなら、ac_upgrade.log に次のメッセージが記録されます:「警告 upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [212] - SQL 更新の失敗: PRIMARY KEY 制約 'PK__UA_AttributeDef__0519C6AF' の違反 (WARN upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [212] - SQL updated failed: Violation of PRIMARY KEY constraint 'PK__UA_AttributeDef__0519C6AF')。重複キーをオブジェクト 'dbo.UA_AttributeDef' に挿入できません (Cannot insert duplicate key in object 'dbo.UA_AttributeDef')。エラー upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [82] - データベース・アップグレード・タスクの実行中のエラー (ERROR upgradeTool.ACMigSysDBUpgradeTask [82] - Error in execution of database upgrade task)。」これらのメッセージは、無視して構いません。
CreativeURL を使用し、Campaign TCS を介してオファーに添付された資産を編集できない	DEF063496	クリエイティブ URL 属性に添付された資産を使用して、Campaign からオファーを作成します。キャンペーンを作成し、ターゲット・セルおよびセルで、そのオファーをそのキャンペーンに割り当てます。割り当て済みオファー列で、そのオファーをクリックしてから、プレビューして編集します。「ライブラリーの参照」をクリックし、ウィンドウ内の任意の場所をクリックします。「行 :0 でスタック・オーバーフロー (Stack Overflow at line :0)」が表示されます。
CreativeURL を使用し、「自分の資産」リンクをクリックしたときエラー 5000 が発生する	DEF063499	このエラーは、Campaign から作成されたオファーに、資産が添付される際に発生します。クリエイティブ URL 属性を使用してオファー・テンプレートを作成し、「ライブラリーの参照」をクリックして資産を添付します。そのテンプレートに基づいてオファーを作成します。クリエイティブ URL 属性で、「参照」をクリックし、資産をクリックし、さらに「自分の資産」リンクをクリックします。エラーが発生します。
英語以外のユーザーの場合に、モデル・プロセスでエラー:14016 が返される	DEF063521	プラットフォームの言語設定が英語以外であるユーザーによって「すべてのアルゴリズム」が選択されている場合に、フローチャートのモデル・プロセスの実行が失敗します。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	問題 ID	説明
<p>「任意の保存先に記録」でいくつかのセルが選択された場合に、ディクショナリー・ファイルが作成されない</p>	<p>DEF063533</p>	<p>「任意の保存先に記録」を使用してレコードを書き込み、「セルの選択」ボタンを使用してセルを選択し、「データ・ディクショナリー付きフラット・ファイル」に書き込みます。フローチャートは正常に実行されますが、.dat ファイルのみが作成されます。ディクショナリー・ファイル (.dct) は作成されません。</p>

第 5 章 既知の制限

Campaign 9.0.0 には、次の既知の制限があります。

表 3. Campaign の既知の制限

問題	番号	説明
ダイアログ・ボックスのサイズを変更できない	該当なし	Campaign のダイアログ・ボックス (例えば、「プロセスの構成」ダイアログや「テーブル・マッピング」ダイアログ) の最大化やサイズ変更はできません。
ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。	該当なし	デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。TCS で、カスタム・セル属性をクリックするか開いて編集すると、表示したり変更したりすることができます。
Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。	該当なし	一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。
Campaign の以前のインストール済み環境のための CreativeURL アップグレード・シナリオ	該当なし	CreativeURL 属性は v6.4 で導入され、v7.x で廃止され、v8.6 で再導入されました。6.4 から 7.x と 8.5 の間のいずれかのバージョンへのマイグレーションを行い、その後 9.0 にアップグレードした場合、9.0 には 2 つの属性 ACx_CreativeURL および CreativeURL があることになります。新しい CreativeURL 属性のみを使用すべきです。ACx_CreativeURL はテキスト属性としてのみ保持され、CreativeURL 機能は提供しません。
UA_UsrResponseType.Name フィールドに制限された文字列を格納できない	該当なし	UA_UsrResponseType.Name フィールドには、文字列 " (' (<スペース><左括弧><単一引用符>) を格納できません。

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する	該当なし	<p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマッピングする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
WebLogic 11g と AIX® 6.1 以上	該当なし	<p>WebLogic 11g と AIX 6.1 以上を組み合わせで使用する場合、WebLogic のクラス・ロードの問題に対処するには手動の回避策を実行することが必要です。この回避策は、Campaign.war ファイルから xercesImpl.jar ファイルを削除して、配置する前に再パッケージすることです。詳細は「Campaign 9.0.0 インストール・ガイド」のインストール手順にあります。</p>
カスタム・マクロのないフォルダーが、「式ヘルパー」ウィンドウの「カスタム・マクロ」ノードの下に表示される	DEF03203	<p>フォルダーが親フォルダーに存在し、それらのフォルダーにカスタム・マクロが含まれない場合でも、Campaign にはフォルダーが表示されます。</p>
カスタム・マクロ・フォルダーのリストが、アルファベット順にソートされない	DEF04175	<p>新しいフォルダーを作成するとき、カスタム・マクロの親ウィンドウは最新表示されません。そのため、新しいフォルダーはアルファベット順ではなくフォルダーのリストの最下部に表示されます。最新表示すると、アルファベット順が復元します。</p>
「拡張設定」ウィンドウの「選択ルール」ドロップダウンの下にある選択されたユーザー定義フィールドは、編集モードで開くべきである	DEF09055	<p>MORE セクションに追加されたユーザー定義フィールドの詳細を確認するためにボタンをクリックするとき、そのユーザー定義フィールドは編集モードで開くはずですが、「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが開いてしまいます。ユーザーは、ドロップダウンからユーザー定義フィールドを選択できます。</p>
Campaign が構文解析できない区切り記号付きファイルを出力する場合がある	DEF011010	<p>出力を区切り記号付きファイルに書き込むときに、出力に区切り文字と修飾子文字の両方を含む値があると、出力ファイルは無効 (構文解析不可) になります。</p>

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
形式が指定されている場合でも CURRENT_DATE マクロには常に時刻コンポーネントが含まれる	DEF041474	<p>サポートされているすべてのデータベースについて、Campaign はデータベースがサポートしている現在時刻の SQL 呼び出し (例えば、SYSDATE、GETDATE、DATE、TODAY など) を使用する CURRENT_DATE マクロをデータベースで実行しようとします。このような場合、このマクロ関数のすべてのパラメーター (日付の形式を含む) は無視され、出力にはデータベースが返してきたものがそのまま含まれます (例えば、時刻コンポーネントが出力に含まれる場合もある)。</p> <p>この問題が発生して、日付のみ、または別の形式の日付を返す必要がある場合、未加工 SQL を使用する独自のカスタム・マクロを作成することも、他の IBM マクロを使用することもできます。例えば、DATE_STRING(CURRENT_JULIAN(), ...) のようにします。</p> <p>CURRENT_DATE マクロが Campaign サーバーで実行されるという場合 (例えば、フラット・ファイルに対して実行される場合、対応する SQL サポートのない推奨されないデータベースに対して実行される場合、または Campaign マクロ式がそのデータベースで解決できない場合など) があります。このような場合には、すべてのパラメーターが認識され、出力は選択した形式で返されます。</p>
IBM CustomerInsight の複数フィールドのオーディエンス・レベルは、Campaign で CustomerInsight の視覚的な選択と共に機能するよう構成しなければならない	DEF042248	<p>IBM CustomerInsight がサポートするのは、単一のオーディエンス・キー・フィールドで定義される 2 次オーディエンス・レベルだけです。マルチキーのオーディエンス・レベルは、EasySet のプライマリー・オーディエンス・レベル用に使用することはできませんが、2 次オーディエンス・レベル用には無視されます。複数フィールドのオーディエンス・レベルを 2 次オーディエンス・レベルとして分析のために使用する必要がある場合、これらのフィールドを関連付けられたオーディエンス・レベル定義がある単一の固有な ID に結合しなければなりません。</p>
Internet Explorer 8 でプロセス・ボックスのパフォーマンスが低下する	DEF04879	<p>Campaign 9.0.0 は、JavaScript に関連した制約のために、Internet Explorer 8 をサポートしなくなりました。</p>
DB2 および Oracle における非 ASCII 文字のマップ・テーブル名	DEF051097	<p>DB2 または Oracle データベースを使用する Campaign 環境において、プロセス構成で新規マップ・テーブルを作成する際に、以下の条件により Campaign がプロセスを実行する際にエラーが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定するテーブル名に小文字と非 ASCII 文字の組み合わせが含まれる場合。 テーブル名にプレフィックスを追加するデータ・ソース・プロパティ (例えば TempTablePrefix) に、小文字と非 ASCII 文字の組み合わせが含まれる場合。
未加工 SQL の IBM 生成フィールドはセグメント・プロセスでサポートされない	DEF052919	<p>IBM 生成フィールドはセグメント・プロセスで使用できないので、未加工 SQL の生成フィールドもセグメント・プロセスではサポートされません。</p>

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	番号	説明
TempTablePool=True と TruncateSQL が設定されている場合、レスポンス・プロセスは実行できない	DEF052937	TempTablePool は DB2 システム・テーブルではサポートされておらず、DB2 のシステム・テーブルについては FALSE に設定しなければなりません。
実行されていない抽出プロセスから出力を取得するプロセスのディメンション・テーブルのプロファイルでエラー	DEF053929	抽出プロセスが設定されたが実行されていない場合に、抽出プロセスでマップされ、後続のプロセスで結合として使用可能なディメンション・テーブルのフィールドのプロファイルしようとすると、エラー 1130 が発生します。この問題を回避するには、後続のプロセスでフィールドのプロファイルを行う前に抽出プロセスを実行します。
存在しないまたは非アクティブなユーザー ID をオブジェクトの所有者として指定できる	DEF053932、 DEF053933	unica_svradm の CHANGEOWNER 構文を使用すると、存在しないまたは非アクティブなユーザー ID をオブジェクトの所有者として指定できます。
ac_populate スクリプトを手動で実行する場合は、システム・テーブル・データベースで autocommit を「true」に設定する	DEF058955	ac_populate スクリプトが機能する方法が変わったため、データベース設定で auto-commit を「true」に設定しなければなりません。この作業が必要なのは、インストール後にこれらのスクリプトを手動で実行する場合のみです。データベースによっては「true」がデフォルトの設定値である場合もありますが、IBM 製品をインストールする前に設定を確認する必要があります。この値の設定方法については、ご使用のデータベースの資料を参照してください。
Campaign ユーティリティー	161323	「IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン」メソッドが「Windows 統合ログイン」または「Web アクセス制御」に設定されている場合、キャンペーン・ユーティリティーにログインしようとすると、「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するため、キャンペーン・ユーティリティーを使用する前に、ログイン・タイプを「LDAP」または「IBM Marketing Platform」に変更してください。
プロセス・ボックスの接続矢印の方向が変わる	201968、200241	フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。

第 6 章 Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスを追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。

Reports Package を使用するには、Campaign を IBM Cognos® と統合している必要があります。

Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参考資料。これらの資料はディレクトリー ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・ビュー
- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス

- キャンペーン・パフォーマンス比較
- キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス比較
- オファー・パフォーマンス・メトリック
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏効率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの詳細
- オファー奏効率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

Campaign Reports Package の既知の問題

このセクションでは、IBM Campaign Reports Package バージョン 9.0.0 における既知の問題を、問題番号順にソートしてリストします。

表 4. Campaign Reports Package の既知の問題

問題	ID	説明
「日単位のオファー・パフォーマンス」ダッシュボード・レポートに表示される、凡例の追加項目	DEF044226	「日単位のオファー・パフォーマンス」ダッシュボード・ポートレット・レポートにおいて、対応するオファーのない日付がレポートに入っている場合に、ラベルなしの追加項目が凡例に表示されます。
複数のパーティションで、レポート・フォルダー権限が同期される	DEF045222	Campaign 管理者が、Campaign の複数パーティション環境における単一パーティションに対してレポート・フォルダー権限の同期を試みる際、パーティションごとに別個の ReportSystem 役割がある場合であっても、すべてのパーティションにわたって同期が行われます。 注: 現行パーティションに属さないフォルダーの同期によって、許可の問題が発生することはありません。

表 4. Campaign Reports Package の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
「キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー」に、余分な行が表示される	DEF047315、 DEF047336	「キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー」レポートに、値が 0 と表示された余分な行が表示されます。
「キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー」に、コンタクト履歴またはレスポンス履歴のないオファーが表示される	DEF047336、 DEF047315	キャンペーンに割り当てられたオファーにコンタクト履歴またはレスポンス履歴のデータが存在しないのに、そのキャンペーンのオファーが「キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー」レポートに表示されます。
「オファー・パフォーマンス比較」に、コンタクト履歴のないオファーが表示される	DEF047745	「オファー・パフォーマンス比較」レポートに、コンタクト履歴が関連付けられていないオファーが表示されます。
レスポンス履歴にデータが設定されていない場合に、レポートに不要な行が追加される	DEF062120	キャンペーンのコンタクト履歴のみにデータを設定した場合、次のレポートに空の行が含まれます。セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス比較 (Campaign Performance Comparison by Cell and Offer)、セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む) (Campaign Performance Comparison by Cell and Offer (with Revenue))。

IBM 技術サポートへのお問い合わせ

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートにお問い合わせすることができます。問題を効率的に首尾よく確実に解決するには、問い合わせる前に情報を収集してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手できる、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、ご使用の IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示すると、任意の IBM アプリケーションのバージョン番号を入手することができます。

IBM 技術サポートのお問い合わせ先

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、「IBM Product Technical Support」の Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、できるだけ IBM カスタマー番号にリンク済みのアカウントにしてください。お客様の IBM カスタマー番号とアカウントとの関連付けについて詳しくは、サポート・ポータル「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ

とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/> の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan